

平成 29 年度 和歌山県高等学校ラグビーフットボール春季選手権大会

平成29年5月31日・6月4日

於 上富田スポーツセンター

平成29年	5月31日	準々決勝	熊野高校	VS	那賀高校	42 - 7	○勝利
	11月6日	準決勝	熊野高校	VS	和歌山工業	5 - 45	●敗戦



またしても和歌山工業の赤い壁に跳ね返されてしまいました。

今年1月に行われた新人戦では5位(合同チームに2度敗戦)という結果と比べると、今回の3位は成長の証であると言えます。

しかし熊野高校ラグビー部が目指しているものは和歌山県チャンピオン。

親・学校・恩師・マネージャー・友人など日頃から支えてくれている多くの方々に対し『花園出場』という形で恩返しするためには今後の選手1人1人のマインドセット(心構え)が重要になり、今回の結果を後に振りかえってみた時『私たちには必要な通過点だった』と言えるよう日々精進していかなければいけないと感じております。

新チームになってから約半年経ちますが、現段階の課題としては3つあります。

- ①失敗に対し憶病になっている(限界突破にチャレンジ出来ない)
- ②対戦相手によって熊野高校の実力が変わってしまう
- ③決めたことをしっかり続けられない

まず①ですが、更なる高みを目指し『成長』するためには『チャレンジ』することが絶対条件です。

【チャレンジ→失敗→修正】を何度も繰り返し、成長するためにはどうしたら良いかを考え、再度チャレンジする。10回チャレンジして1回も出来なかったことが2回・3回成功するようになって、50%→80%→100パーセントの成功率になるまでとことん追求しなければなりません。しかし今のラグビー部をみると、日を追うごとに良くなっているのですが、まだまだ日によってテンションの浮き沈みやしんどさに負け練習の強度が下がってしまう日があり、選手自身が『練習をやらされている』と感じている日には完全に受け身になりチャレンジすら出来なくなってしまう。

成長するためには失敗から学ぶ事が大切であり、その失敗をするためには果敢にチャレンジすることが絶対条件であるが故に失敗しても『取り返してやる!!!』という気持ちをもってアクションし、『失敗』という結果に対しそのまま終わることなく、『失敗』をこれから成功するための【通過点】として前向きに捉えられる集団に変われる信じています。

②については、相手によって自分が発揮出来るものが変わるということは、普段から目の前の人によって態度を変えている事が習慣になってしまっていることの表れ以外何物でもありません。年下・年上・学校の先生や自分に関わってくれている関わっていない関係なく、どのような立場の人に対しても敬意を行動として表していくべきだと考えており、人によって態度を変えるということは少なからず損得勘定が働いていたり、自分自身のやるべきことにきちんとフォーカス出来ていない場合が多く、大事なことは『人として、ラグビー選手としてやるべきことを周りに左右されることなく、どんな小さなこと細かいことでも100%の情熱をかけ丁寧に行うこと』です。

相手が誰であっても目の前の人を笑顔にするために・チームの勝利に貢献するために自分のやるべきことを整理し、いざ実行するとなったら全身全霊をかけて行う。小さいことや人が嫌がること・面倒くさがるようなことであってもこの行動を日々積み重ねていくことができれば、自己肯定感が上がり、周りの状況や周りの環境に左右することなく自身の力を100%発揮することができるので、選手自身が応援される人間・応援したくなるようなチームに変わることができます。

要は、グラウンド内外関係なく・指導者や周りの人が見ている見えていない関係なく、ブレずに信念を通し『行動』が出来るかどうかは今後の人間力ベースアップに大きく関わってくると思います。

③の継続できないという課題に関しては、指導者が何度も何度も重ねて指導していけば良いのかもしれませんが、それでは選手の自主性・

主体性・優先順位を判断する力の成長を妨げ、結局は受け身の集団になってしまうのではないかと感じております。私ができることとしては、

『なんのためにするのか？』

『なぜこれをしなければならないのか？』

『今しなければいけないことは？』

などをしっかり考えさせ、生徒達が内に秘めている純粋で熱いハートを表に出させ、『私はこれを達成したいから、これをやる』というように自発的にモチベーションをあげ、主体性を持って自主的に動けるようにきっかけや気づきを与える事だと思っています。

失敗は誰にでもあります。大人になっても失敗は誰も必ずあるものです。1つ失敗したら勇気を振り絞って2つ良いプレーをすればいいのです。グラウンド外でもミスはありますし、その1つミスをしてしまった時にでも2つ良いことをすれば、それだけでプラスになります!!

前述しましたが、大事なことは『失敗を受け入れた上で、取り返してやる!!!!』という気持ちです。

しかし、現段階では指導者の顔色をうかがい、指導者の立ち位置や失敗を見られている見られていない、を気にしている選手が非常に多いと感じますし、失敗して指導者側を見ている時間があるなら直ぐに行動へうつし、気持ちを直ぐに切り替えて取り組んでほしいと思っています。成功したからモチベーションが上がる・失敗したからモチベーションが下がる、結果によって自身の取り組みが変わってしまうようなら、それまでの人間です。

全国大会予選まであと4カ月、どんな事があっても自分を信じ、自身やチームのやるべきことにフォーカスし続け、結果に左右されることなく理想の自分を追求し続ける集団を目指していきます。

新チームのスローガンは『常に挑戦』と『誰からも愛されるチームになる』です。

昨年11月に敗戦してから、木下キャプテンを中心に選手達でじっくり話し合いをさせ何カ月もかけて決めさせました。いくらスタッフでスローガンを決めてもグラウンドでプレーするのは選手達です。特に試合になればスタッフからの指示というのは選手全員に共有できるという場面は少なく、だからこそ選手自身で考え、選手自身でやるべきことを明確にしてから実行するためには、日頃から考える力や常に物事に優先順位を付ける癖をつけ、やりきる力と覚悟を持たなくてはなりません。

ラグビーは選手達のもので、そして2017年度の歴史を刻むのは3年生の覚悟であり、チームの雰囲気を作るのは3年生の生き様です。しかし、まだまだ3年生には甘さがあるのではないかと感じています。

背中チームを引っ張っていくという覚悟、自分自身を厳しく律しつつ仲間がチームルールを守れなかった時にきちんとと言えるかどうか、そして『我慢』ができるかどうか。

春季大会後、1年生も学校の生活に慣れてきたので改めてキックオフミーティングを行いました。チーム全体に求める事として

【出来ない理由を探すのではなく、出来る理由を探す】

【チームの誰にも負けない武器を1つ作る】

【競争を楽しむこと】

【ただなんとなく過ごすな】

【日々どんなアンテナを張るか？】

【準備の大切さ】

などの話をさせて頂きました。

これから始まる夏に向けて、

和歌山チャンピオンにふさわしいチームになれるか、自分に厳しく取り組めるか、チーム全員で叱咤激励しあいながら厳しい練習を乗り越えられるかどうか、をテーマに日々チャレンジしていきたいと思います。日々の生活の中で、『今日はこれくらいいいや!!』と現状維持を求めたら衰退の一途を辿るだけです。まず、生徒たちには己の可能性を信じもらい、知らず知らずのうちにかけてしまっているメンタルブロックを外して自分で決めたことをやりきってもらいたいと思います。

7月・8月をどう過ごすかが、秋の結果に大きく関わってきます。選手・マネージャー・保護者・スタッフが丸となって取り組んでまいりたいと思いますので今後とも、ご指導ご鞭撻、ならびに熊野高校ラグビー部への変わらぬサポートをよろしくお願いいたします。

熊野高校ラグビー部コーチ 吉田大樹